

# 在外教育施設派遣報告書

前 バンコク日本人学校 教諭

現 根室市立柏陵中学校 教諭 上野 資幸

## 1 派遣国の概要



### 【交通渋滞】

- (1) 国名 タイ王国
- (2) 首都 バンコク
- (3) 時差 日本と2時間
- (4) 面積 日本の1.4倍
- (5) 気候 暑季(3～5月平均35℃)  
雨季(6～10月)  
涼季(11～2月平均25℃)
- (6) 政治 立憲君主制(プミポン国王)  
在位65年(世界最長在位)
- (7) 年号 西暦とタイ仏歴を併用  
(仏歴は西暦に543を加算)
- (8) 人口 約6,700万人  
(首都バンコク 約600万人)
- (9) 人種 タイ族(75%)  
中国系(14%)  
マレー、インド系, 山岳民族(11%)
- (10) 言語 公用語はタイ語
- (11) 宗教 南方上座部仏教(約94.6%)  
イスラム教(約4.6%)  
キリスト教(約0.7%)  
その他

- (12) 教育 6,3,3,4制 義務教育9年
- (13) 通貨 1バーツ約2.7円
- (14) 輸出相手国 3位 日本(10.32%)  
輸入相手国 1位 日本(18.7%)  
(データ: ハロータイランド 2011)

## 2 派遣日本人学校の概要

- (1) 沿革
  - 1931 大使館附属日本語講習会として創設した世界一古い日本人学校
  - 1972 バンコク日本人学校と改称
  - 1974 泰日協会学校(通称バンコク日本人学校)に改称、タイ国私立学校法に基づき政府から正式に認可
  - 1982 現在地に移転
  - 2009 姉妹校ソフィヤ校開校
  - 2010 児童生徒2,479名(10月現在)
- (2) 校訓 広い心で 明るく  
なかよく たくましく
- (3) 教育目標
  - ①思いやりのある子(徳育)
  - ②創造性を発揮し積極的に学ぶ子(知育)
  - ③心身の健康をつくる子(健康)
  - ④国際性豊かな子(国際性)
- (4) 目指す学校像
  - ①安心して学び通う事ができる学校
  - ②確かな学力と豊かな国際性を身につける学校

### (5) 学校行事

- ①タイ現地校との交流学習会(全学年)
- ②修学旅行 小6 チェンマイ  
中2 スコータイ



【約120台のバス下校】

## 3 特色ある教育

### (1) 確かな力を育てる教育活動

- ①小中併設を生かした指導
  - (i)情操教育の充実
    - ・音楽科 全学年専科教員が指導
    - ・図工科 4年以上専科教員が指導
  - (ii)小学部5年生
    - ・家庭科は専科教員が指導
    - ・算数科はチームティーチング
  - (iii)小学部6年生
    - ・教科担任制
  - (iv)中学部1, 2年
    - ・数学科は少人数指導
- ②土曜登校日
  - (i)月1回 小5以上登校日
  - (ii)月1回 中3登校日

### (2) 日本人学校ならではの教育活動

- ①日本語特別(ことばの時間)
  - (i)日本語力の保持・向上のため  
全学年実施
  - (ii)朝学習時や帰りの時間
  - (iii)漢字、ことばのきまり、作文

### ②日本語補習

- (i)年間25時間程度
  - (ii)小学1, 2年の希望者
- ### ③水泳、体力づくり
- (i)通年実施
  - (ii)タイ人コーチとともに習熟度別指導
  - (iii)臨海学校で遠泳(小5)
  - (iv)スポーツ大会(各学年ごと)

### (3) 異文化コミュニケーションとIT教育

- ①タイ語
  - (i)全学年 週1時間(中3は選択)
  - (ii)日本語に堪能なタイ人教員が指導
- ②英会話
  - (i)小学部3年以上
  - (ii)週2時間
  - (iii)指導はネイティブスピーカー
- ③IT教育
  - (i)情報スキルを学年ごとに設定
  - (ii)小5でプレゼンソフト指導
  - (iii)情報モラル指導

### (4) 特別支援教育の充実

- ①就学指導委員会の設置
- ②学びの支援委員会の設置
- ③相談室の設置(スクールカウンセラー担当)

## 4 派遣国の生活全般にかかわって

### (1) 生活習慣・タブー

- ①王室関係
  - (i)王室批判は不敬罪に問われる。
  - (ii)興行物の開演時には国歌か国王賛歌が流れる。直立不動。
  - (iii)8時、18時に国歌が流れる。
  - (iv)王室関係の車が通るとき、一時的に通行止めになる。
- ②寺、僧侶関係
  - (i)拝観時に肌が露出した服装×
  - (ii)女性が僧侶の衣に触れる×

### ③対人関係

- (i) 頭は神が宿るところ。  
なでたりできません。

### ④対人氣質

- (i) 管理嫌い、寛容で慈悲深い

## (2) 生活

### ①衣食住

#### (i) 衣

- ・ Tシャツ、短パン、サンダルで1年を通して生活できる。

#### (ii) 食

- ・ 米、野菜、調味料など現地生産されるようになってきている。
- ・ インスタント食品などは日本からの輸入なので高価。
- ・ 日本の食品を買える店は伊勢丹やイトーを筆頭に多数出店している。

#### (iii) 住

- ・ アパート
  - ・ コンドミニウム
  - ・ サービスアパート
- 日本語対応の不動産業者が多数。

### ②交通

#### (i) 高速バス(BRT)、都バス

#### (ii) タクシー

- ・ 初乗り 35B

#### (iii) 鉄道

#### (iv) エアポートレールリンク

- ・ 6時～24時
- ・ 急行と普通の2種類

#### (v) MRT(地下鉄)

- ・ 6時～24時, 5分間隔
- ・ 運賃 15B～39B
- ・ ICが組み込まれたコイン型チケット

#### (vi) BTS(スカイトレイン)

- ・ 自動運転システム
- ・ 6時～24時, 5分間隔
- ・ 運賃 15B～40B

### (vii) その他

- ・ ボート
- ・ トウクトウク
- ・ モーターサイ
- ・ ソンテウ
- ・ シーロー



【乗合タクシー シーロー】

### ③通信

- (i) 国際郵便、国際電話は日本からより安い。
- (ii) 携帯電話はプリペイド式。日本語でメールができるものもある。
- (iii) インターネットは日本より劣るが接続は可能。

### ④習い事

- (i) 語学学校や、学習塾もある。  
日本より授業料が安い。

### ⑤教育

#### (i) 幼稚園

- 日本人幼稚園、インターナショナル幼稚園ともに多数ある。

#### (ii) インターナショナルスクール

- 米国籍と英国式がある。

## 5 その他、雑感

### (1) 日本人学校勤務

#### ① 1年目中学部 3-2 担任(4 学級)

- (i) 40 代の経験豊かな先輩教員にひとつひとつ教えて頂きとても勉強になった。
- (ii) ゆっくりと学年会をする時間もなく、少ない空き時間での教員間のコミュニケーションがとても大切だった。
- (iii) 事務作業能力ない人は3年の担任はできないといわれるくらい進路事務には細心の注意を払う必要があった。緻密な先輩教員の指示と指導のおかげで無事生徒全員の進路先も確定した。

#### ② 2年目中学部 3 学年主任(担任無)

- (i) 生徒指導の経験豊かな先生方のおかげで何とか卒業させることができた。
- (ii) 他学年や小学部との連絡調整や学年内の担任間の意思統一の調整など、とにかくどこに落としどころを持って行くかということを学んだ。その際、小学部の教員とも学外活動で関わりを持っていたことにより、何回も調整の窮地を救われた。日頃の同僚との関わりの大切さを学んだ。

#### ③ 3年目進路指導部長 (担任無)

- (i) 現地インター校、日本の高校、海外の高校の進路担当者とのメールや電話でのやりとり等、時差も考慮しながら調整にあたるという仕事だった。来校時の対応や学校説明会の対応など、授業をする本来の教員の仕事とはかけ離れているが、「すべては子どもたちのために」

をスローガンに掲げる管理職の指示のもと、数多くの説明会を開催することができた。

- (ii) 管理職の計らいで、シンガポール日本人学校やペナン日本人学校の進路担当者とも現地で懇談することができ、実力テストや海外入試の実施方法などさまざまな交流をすることができた。
- (iii) 3年目で初めて管理職と直接的に仕事に関わりを持つ仕事となった。電話対応、来客対応、保護者対応緊急時の決断のスピード、明確な指示など、とても勉強になった。

### (2) 研修 (現地校施設について)

#### ① チュラロンコン大学附属中学校 (タイ中部バンコク都)



【古く、雑然とした教室】



【広い体育館】



(i) タイの東大といわれるチュラロンコン大学の附属校である。

(ii) 後述するチットラダー学校のように、冷房完備できれいな印象はない。伝統がある古い校舎と古い教室という感じである。

(iii) 生徒は自校の校長の講話中でも私語をやめる気配はなく自由奔放である。

② バーンポングナムローン学校  
(タイ北部チェンライ県)



【教室の照明は3本だけ】



【統一性のないコンピュータ室】



【立派な靴箱はない廊下】

③ サハサートスクサート学校  
(タイ北部チェンライ県)



【統一性のない机、椅子】

(i) 少数民族の学校である。

(ii) 児童生徒数130名。

(iii) 教室の机や椅子、コンピュータなどは統一規格のものではなく寄せ集めた感じのものであった。

(iv) サッカーボール1個でもとても貴重だという話しであった。



【生徒は靴下、先生は靴で歩く廊下】

(i) 少数民族の学校である。

(ii) 児童生徒数は2200人。

(iii) 海外6カ国から支援を受けていることから、立派な施設である。





【それぞれの民族衣装で授業】



【整頓された黒革靴】



【外国の援助で建設された寮】



【涼しい環境の教室】

- (ii) 冷房完備で施設はとても充実していた。
- (iii) 生徒には「お好み焼き」の作り方を教えたが、とても熱心に聞く生徒だった。



【整備されたグラウンド】

⑤ムッサム・サティタム・ムラニティ学校

(タイ南部ナコンシータラート県)

- (i) 児童生徒数は2000人。
- (ii) イスラム教徒の学校である。
- (iii) 生徒の机は長机、椅子は屋台の椅子だった。
- (iv) 生徒の靴が違った。チットラダー校は黒の革靴。ここは白の運動靴だった。

④チットラダー学校

(タイ中央部バンコク都)

- (i) 王族や宮内省勤務者の子息が通う学校である。日本の学習院という感じである。





【長机と，屋台と同じ椅子で授業】



【靴は白の運動靴】



【男女別習の授業】

「都市部と地域の学校の違い」という観点で複数校見学した。

1年目はタイと日本の違いというよりも、モノがあるのとないのとの違いだと感じた。先輩教員とともに夏期休業を利用して、北タイの研修旅行をし

た。その際は、何の知識も持たずにただ見ただけだった。しかし、この後、校内授業研究で社会科の先輩方の授業をみて、タイの歴史にさらに興味を持つことができた。

【焼き畑の結果（タイ側）】



【焼き畑の結果(ラオス側)】



【麻薬王クンサー】

2年目、幾つかの文献やインターネットでタイについての知識を少し吸収してから北タイの国境沿いをもう一度視察した。そこで「国民党軍」「エイズ」「ミャンマーのシャン州」「ミャンマー難民」「麻薬王クンサー」「山岳少数民族」の関わりなど、昨年見た学校の子どもたちの背景にあるものが理解できた。



#### 【タイ北部と隣国の地図】

3年目、ミャンマー側国境は選挙による治安悪化のため閉じていたので、物資の往来状況は視察できなかった。しかし、第2次世界大戦中の泰緬鉄道建設場所などは訪問することができた。「残留日本兵の生存」「慰霊碑」「遺骨収集」なども知ることができた。

北部と東部国境の人の往来と盛況な市場を目の当たりにした。北部国境では、中国から大量の物資を積載した大型トラックの往来が多かった。東部国境では、身分証明書を見せて簡単な書類を作成するだけでタイ人は国境を越えて対岸の市場へ買い出しに行くことができた。

このような陸続きの国の国境には複雑な問題があるということがわかった。また、日本が島国であることを再認識させられた。北方領土問題についてあらためて深く学びたいと感じた。

## 6 終わりに

全国から派遣されてきた教員とともに研修ができたことはとても有意義だった。130人近くの職員がいるので、考え方も多種多様である。そんな大きな組織を機能させるために必要なことを体感できたことが大きな成果である。

初任から11年たち、担任、学年主任、教務主任と一通り仕事をして、何が普通なのかわからなくなった。そんなとき、日本人学校という選択肢を紹介していただいた。視野の狭くなっていた自分にとって、全国の諸先輩方や、若くても実践力のある先生方の仕事術を間近に見ることができとても有意義な研修となった。

学んだことは

「決断力と対応のスピード」

「責任の所在」

「情報収集の方法」

「書類整理」

「事務作業の合理化・効率化」

「ONとOFFの切替え」

「基礎体力と健康維持」

など数え切れない。

現地スタッフやアパートのスタッフ、そして運転手や家政婦とは現地語で交流した。運転手の家族を通して、タイ東部の生活にも触れることができた。

学んだことを、根室の子どもたちや職場に少しずつ還元できればと思う。

最後になりましたが、原籍校の管理職や根室国際理解研究協議会の諸先輩方には本当にお世話になりました。

この場を借りてお礼申し上げます。